

2023年度厚生労働省医政局委託事業
「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP/地域BCP策定モデル地域

北海道紋別市における取組み

紋別市福祉サービス事業者連絡会

会長 羽田三紀子 (看護小規模多機能ホームひなた)

副会長 高橋亜希子 (北海道総合在宅ケア事業団 紋別地域訪問看護ステーション)

事務局 宮川法親 (介護ショップみやかわ)

地域の状況

・紋別市人口 20,108人

高齢化率 37.9% *北海道 32.8%
R5.1 住民基本台帳

・地域の特徴

紋別市はオホーツク海沿岸のほぼ中央に位置し、総面積は830.70 km² と広大な市域を有している。市域の約8割が森林地帯を占め、海岸線は28kmに及び、海・山・川に囲まれた雄大で美しい自然環境・景観を誇っている。

気候は冷涼で特に冬期は流氷到来もあり寒冷となる。大雪や暴風雪・積雪による交通障害に見舞われることも多い。

基幹産業は漁業・農業等。

・紋別市の災害等の歴史

暴風雪・大雪による交通遮断や停電等に数年に一度の頻度で見舞われる。オホーツク海沿岸ではあるが、津波による人的被害はない。

《主たる災害》

- 2018年9月 胆振東部地震によるブラックアウト:市内全域
- 2022年12月 暴風雪による停電:市内全域



わが地域の課題

•これまでの被災経験で特筆すべきこと

自地域は暴風雪による交通遮断や停電が数年に一度の頻度で見られる。昨年末は雪害による停電が発生し、二日間被災した。停電による固定電話や回線によっては携帯電話、インターネットが繋がらない等の通信障害がみられた。

•連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由

- 災害情報の共有、安否確認:被災時は災害情報の収集や利用者の安否の確認が困難となり、各事業所では手探りでの情報収集や安否確認を余儀なくされた。電話が繋がらない利用者には直接訪問し安否確認を行ったが、複数の事業所で同じ利用者に安否確認を行った例もあった。
- 避難所:避難所情報の周知は広報車で行っていたが、窓を閉め切るため聞こえず避難所開設を知らない人が多くみられた。又、要介護者が避難所に行った際に対応が困難なケースもみられた。

関係機関が協力・対応できる体制づくりが必要と考えた

わが地域の課題

・BCP観点からの課題

1. 暴風雪による停電や交通障害が多く広大な市域を有す自地域においては、利用者の安否確認は困難を極める。重複した安否確認を行うことは、生命に直結する問題を抱える利用者への対応の遅れにもつながる。又、直接、自宅に訪問し安否確認や支援することも予測されるが、正確な情報や判断の中で行動しなければ二次災害のリスクも高まる。
災害時の**情報集約、発信、共有方法の仕組みをつくり**、各事業者の安全を確保しながらも効率的な安否確認、そして必要な支援につながる体制づくりが求められる。**地域の特徴をふまえた安否確認方法の確立や支援体制づくり**が必要である。
2. 自地域の避難所では介護が必要な方の受け入れが困難な状況がみられる。要請があれば介護支援が可能な事業所もあるが、仕組み、制度、人的な責任や報酬の問題など実現には困難な点も多い。
避難所においても**必要な医療・ケアが切れ目なく受けられるよう、行政とともに避難所での体制づくり**が必要である。

今年度の取り組み(1)

・目的(何をを目指すのか?)

有事の際、在宅療養者が自宅・避難所等どこにいても必要な医療やケアが受けられるようケア機能の分担や連携、体制づくりの確立を目指す

・実際にどのようなことにチャレンジするのか?

- ①行政への協働依頼
- ②研修会開催: サービス事業者、行政等対象に地域BCPの理解および課題の共有
- ③災害情報が共有できる体制づくり
- ④医療・介護の継続が必要な利用者の安否確認の共有・対応方法の確立
- ⑤避難所の運営について確認、医療・ケアが継続できる体制づくりの提案と協力

今年度の取り組み(2)

・必要な支援

- ✓ BCP・地域BCPについての講話
- ✓ 医療・ケアが継続できる避難所の体制づくりに関する助言
：骨子案、行政、関係機関との連携・協働方法等

・具体的スケジュール

- 9月：研修会の開催（講師：山岸暁美先生）
市役所災害担当者に紋別市の災害対応、避難所の運営について確認
情報共有方法、アプリ活用の検討
- 10月：山岸暁美先生視察、行政・医療機関との面談
目的を達成するための方策の相談・検討
- 11・1・2月 「地域BCPを考える」有事の対応と備えについて3回シリーズで研修会を開催
①在宅酸素療法中②要介護者（寝たきり・精神・認知症）③避難所運営等
参加者：行政、医療機関、社協、サービス事業者などの関係者

今年度の取り組み(3)

・7月1日以降の進捗

①行政への協働依頼: 8月 保健福祉部長、課長と面談し地域BCP策定の協働依頼

②研修会開催: サービス事業所、行政等対象に地域BCPの理解および課題の共有

◆ 9月8日 「一緒に考えよう!紋別市における地域BCP」セミナー開催

(参加者) 市内介護・福祉サービス事業所、行政等 26名

- 講師: 一般社団法人コミュニティヘルス研究機構 機関長 山岸暁美氏
- 講演後GWを実施し、今年の被災経験(大規模停電)の課題を共有
(情報共有、安否確認、協力体制等について)

- ・電気、通信障害による災害情報や避難所情報等の入手が困難であった
- ・各事業所による重複した安否確認や複数の避難所への確認が必要であった
- ・医療的ケアが必要な方の避難所の受け入れが可能かどうか不明
- ・避難所で継続的にケアや医療をうける体制に不安があった
- ・認知症の方が避難所で過ごせなかった

等

避難所に関連する課題が多数みられた。
避難所でも必要な医療やケアが受けられるよう
体制づくりが必要



③災害情報が共有できる体制づくり

④医療・介護の継続が必要な利用者の安否確認の共有・対応方法の確立

◆ 災害時の情報共有ツールの検討

- 9月 MCS運営事務局の方の説明会
 - ・災害時のみの使用は適さない。平時から情報共有ツールをして使用した方が良い
- サービス事業者、関係者でまず試用し拡大していく
- 市内の3カ所の訪問看護ステーションでMCSグループを作り、有事の協力体制を構築

◆ 市内の在宅酸素利用者の状況把握

- 9月 保健所、市保健師に確認
 - ・市内の在宅酸素利用者の把握は紋別市、保健所は電気代補助の申請を行った方のみ
必要時保健所→紋別市に情報提供

⇒今後、有事の際は訪問看護ステーションと保健師間で情報共有を行う

⑤避難所運営について確認、医療・ケアが継続できる体制づくりの提案と協力

◆避難所運営について確認

➤ 9月 市役所防災担当者との面談

紋別市における防災への取り組み、災害時の避難所開設に係る基準や現状について確認
個別避難計画作成のための情報収集の協力、有事の際の個人情報共有方法、避難所の
介護支援協力について相談・提案

◆山岸暁美先生視察、行政・医療機関との面談、今後の方策の相談・検討

➤ 10月 視察（広域紋別病院、市役所災害担当・保健師との意見交換）

- ・広域紋別病院：有事の際の在宅酸素利用者の受け入れ状況確認。今後の協力体制を合意
- ・市役所防災担当係：サービス事業者連絡会委員を災害運営委員としての位置づけを検討。
山岸先生より他の地域の災害対応について情報提供
- ・保健センター保健師：福祉避難所となる保健センターの対応状況を確認。要介護者や医療
ニーズが高い方の避難所での対応について検討が必要
- ・在宅療養支援診療所医師：市内の在宅療養の状況確認

⇒関係機関が集まり、有事を想定した安否確認方法や各機関の対応、事前の備え等について考える機会が必要